

北海道青年革新懇ニュース

9月19日 学校の先生に教育・学校について 色々語り合うしゃべり場

講師：梶木康展さん（全北海道教育員組合書記次長）

9月19日に行われた例会では、今いじめ問題などで大きく取り上げられることの多い学校について、現場の様子や生徒の実態などを知ろうというテーマで、会員でもある道教組の梶木先生よりお話を聞きました。今、学校では、学力競争、教員への締め付けが厳しくなり、生徒一人一人に寄り添った「ゆきとどいた教育」から遠く離れた状況になってしまっています。その中で、教員は生徒と向き合いながら学びを深めようと試行錯誤しているが、長時間過密労働の中で、精神疾患を抱えてしまう人が多いそうです。梶木先生のお話の後、参加者との質疑応答の時間を設けられました。誰もが経験してきた“学校”という共通したテーマだったこともあり、参加者からはかなり活発に発言がなされたように思います。それぞれが自分の経験を語り合うなかで、学校の問題を自分につながるものとしてとらえ、競争をあおられる中で学校生活を過ごし、そこで劣等感を持ったり、自己肯定意識が失われていることが、競争を強いる現在の学校教育が及ぼした弊害ではないかと、自らの経験談も交え語られました。また、

民青の活動の中でも、そうした学校生活での悩みを抱える青年に会うことが多いという報告もありました。

競争の中で、常に相手と比べながら自分を見出すのではなく、「自分は自分！」という開き直りが大事、そこに気づけた時本当の“自分”ができた気がする、という意見。そこから、一人ひとりがそれぞれ違って、補い合うように生きていることに気づければ、いじめ問題などの解決の糸口になっていくのではないかという梶木先生の発言もありました。

私自身にとっては、梶木先生のお話や、参加者の皆さんの話を聞き、学力競争の中でひどく一面的な価値観しか身につけてこなかったのではないかと自分自身を見つめ直すきっかけともなりました。学校教育を考えることは、自分の原点を考えることでもあるし、未来を考えることだとも思いました。(S)

